

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 11 日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-----------|
| 事業所番号 | 2170102566 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 友愛会 | | |
| 事業所名 | 福光グリーンホーム | | |
| 所在地 | 岐阜市福光東3丁目10番8号 (電話) 058-210-2011 | | |
| 評価機関名 | NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月11日 | 評価確定日 | 平成20年9月1日 |

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 25 日 事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 5 月 8 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤 19 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 | 19 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|--------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 50,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000~ 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(150,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 |

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 25 日 現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 5 名 | 女性 22 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 8 名 |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 6 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 85.3 歳 | 最低 72 歳 | 最高 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | 岩砂病院 竹村歯科 |
|---------|-----------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の高級住宅地の中に、市の都市景観賞を受賞した木造2階建てのホーム建物は、周りに調和してスッキリと溶け込んでいる。中はゆったり広く、天井も高く、木の香りもさわやかである。終末期は法人母体である病院や自宅という方針のもとに、元気な利用者が、ほとんど毎日行われている外出やリハビリ、華道・絵画・書道・手芸等々の活動的なメニューを楽しんでいる。運営推進会議の話題から始まった日赤奉仕団、幼稚園児・小学生、総合学習の中学生など地域の子どもの来訪は、利用者が最も楽しみにしている大切なひと時となっている。母体法人との医療連携の円滑な運営のもとに、利用者のやすらいだ生活が支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 継続的な改善課題である玄関口の施錠については、検討努力されたが立地・敷地・設計上の制約もあり、ベランダを使った外気浴や頻繁な外出等で努力している。 |
| ① | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 各ユニット毎に会議を開いて話し合い、対外的に共通な部分は一本化されているが、利用者の生活に関する項目はユニット毎の個性がそのまま活かされている。重要な気づきの機会として業務の改善につなげている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 会議には自治会長、班長、民生委員、家族、行政などの出席がある。会議が糸口となり、日赤奉仕団、幼稚園、小学校、中学校との交流が始まり、総合学習の場になっている。法人内に地域包括支援センターをもち、行政とは医療・介護の多方面で連携している。介護担当部長は市の福祉計画推進委員会のメンバーでもある。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 法人広報誌「友愛会だより」、ホームの月報「ホームたより」、に加え担当者による手紙によって利用者毎の状況を報告している。ホームに対する意見は家族の面会時に聞いており、苦情箱は玄関口にあり、運営推進会議などでも意見を言う機会もある。苦情処理は組織として受けとめ、その詳細は書面で残され法人としても審議している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 自治会、敬老会、自主防災勉強会、公民館活動、ラジオ体操、神社掃除、おひまち行事の参加等々の交流がある。日赤奉仕団の来訪、年2回ずつの幼稚園児と小学生(1クラス約40名)の来訪、中学生の総合学習の一貫としての来訪などは、利用者の何よりの楽しみである。 |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 母体法人の理念「…健康で幸せな生活を願い、…医療と福祉・介護との連携に努めます」を受けて、ホーム独自に「私たちは、毎日、笑顔にあふれ自分らしさを大切にする暮らしを提供します」の理念を作っている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 法人の理念である医療と介護の連携は、専任担当部長が推進役となって遂行している。職員制作の理念は、さらに今年目標やスローガンとして具体化し、掲示され、実践できるよう努力している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会、敬老会、自主防災勉強会、公民館活動、ラジオ体操、神社掃除、おひまち行事の参加等々の交流がある。日赤奉仕団や子ども達の来訪は盛んであり、利用者の何よりの楽しみとなっている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 継続的な改善課題である玄関口の施錠については、検討し努力したが立地・敷地・設計上の制約もあり未解決である。しかしながら、ベランダを使った外気浴や頻繁な外出等で努力している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は自治会長、班長、民生委員、家族、行政などの出席がある。会議が糸口となり、日赤奉仕団、幼稚園、小学校、中学校との交流が始まり、総合学習の場になっており、利用者にとっても待ち遠しい年中行事である。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 法人内に地域包括支援センターをもち、行政とは医療・介護の多方面で連携している。介護担当部長は市の福祉計画推進委員会のメンバーでもある。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 法人広報誌「友愛会だより」、ホームの月報「ホームたより」、に加え利用者毎の状況を担当者の手紙により報告している。金銭管理は3ヶ月毎に説明・清算し、家族の確認印をもらっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホームに対する家族の意見は面会来訪時に聞き取り、苦情箱は玄関にあり、運営推進会議で意見を言う機会もある。苦情処理は組織として受けとめ、その詳細を書面で残し、法人としても審議している。 | ○ | 運営規定、契約書、重要事項説明書においては、若干の誤りの修正と苦情相談窓口掲載等について見直しが望まれる。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 全職員が法人本部で採用された常勤社員であり、少数精鋭の密度の濃い支援が行われている。異動は担当している利用者家族へは通知されているが、その他の家族へは「ホームたより」に掲載することを検討中である。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修、法人内研修、外部研修と研修体制は整備されている。休憩時間は時間通り別室で休み、仮眠する事もできる。現在の職員は全員法人の常勤正社員であり、毎年慰安旅行もある。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各種の会議や研修会で他事業所職員と面識が出来て情報交換が行われている。新設のグループホームから依頼を受け、ホーム内で他事業所職員の研修を行うこともある。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用希望者には見学を呼びかけており、併設のデイサービスの利用者がホームの雰囲気慣れて入居するケースもある。1週間程度の体験入居は、指定の職員研修修了後、実施を予定している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 茶道・華道の師範であった利用者が活かした本格的な生花が居間を飾っている。習字、絵、折紙などの作品や行事のときの写真が各所の壁面に程よく飾られ、職員が教えられることも多い。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時の「フェイスシート」とその後の「基本情報シート」はよく整備されている。利用者・家族の背景や思いの把握を誰でも素早く、容易に、均質にできるような体制が整えられている。毎週2名の傾聴ボランティアも来訪している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 毎日の状況変化をしっかりと把握し、毎月行われる職員全員の会議で更に情報交換を行っている。それらを踏まえて本人・家族も交えたユニット毎のサービス担当者会議で、介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 計画は毎日モニタリングがされ、変化があればその時に、変化がなくても3ヶ月毎に、本人・家族も入ったサービス担当者会議が時間をかけて行われている。年2回「日常生活動作・認知度レベル調査」が行われ、それも参考にしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を活かし、病院から派遣された理学療法士は個人別のリハビリカルテを作成して職員と利用者を毎週指導している。職員はそれにもとづくトレーニングを毎日利用者で行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 通院支援は、基本的には家族に依頼しているが、急な受診で対応が困難な時には職員が行っている。ケースによっては、受診時家族に同行し、ホームでの様子を医師に伝える役割もしている。年1回の健康診断やインフルエンザの予防接種はホームで行われている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 母体医療法人と連携して終末直前までの介護は行いが「看取り」はホームでは行わない方針が確立されている。入居時に終末期の対応は病院又は自宅だと説明しており、希望があれば協力病院等の他の施設も紹介している。 | ○ | 終末期の対応について、運用マニュアル等文書化の検討が望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員と利用者の会話は、明るく和やかな中にも立場の違いを考え配慮している。事務室など必要なところは施錠されている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床・就寝・入浴・食事など目安の時間はあるものの利用者の意向が尊重されている。外出・リハビリ・レクリエーションも個人ごとに適切に支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月～土曜日は外部の食材サービスを利用しているが、日曜日は希望メニューの日で、食材の買い出し・調理下準備の手伝いから始まる。介護度の高い人も自分で食事をしている。個人の食器・箸が用意され、名前の貼付にも工夫がある。利用者同士の会話もある。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は基本的に週2～3回の支援を行っているが、希望があれば毎日でも入浴できる。午後の時間帯の入浴が原則ではあるが、夜間入浴・シャワー浴・清拭などにも対応している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の食事の配膳・下膳、清掃等は手馴れたものがある。茶・生け花・書・水彩画・絵手紙・手芸品など趣味は多彩で、作品が居間・廊下壁・居室を飾っている。幼稚園児・小中学生の来訪は利用者の楽しみとなっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近くに公園・神社もあり、天気の良い日はほとんど毎日のように散歩・外出・買物が行われている。皆で喫茶店に行くことも人気がある。外出できない人はベランダでの外気浴が支援されている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関口の施錠は継続案件であるが、立地・敷地・設計上の制約もありベランダを使った外気浴や頻繁な外出等の努力でカバーされ、のんびりゆったりした気風である。居室の鍵は使われていない。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|--------------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の防災訓練を行い、近隣への協力依頼や地域防災訓練参加も行われている。備蓄飲料水も管理されている。消防署への直結電話・緊急連絡先一覧・体制表は事務室壁に掲示し、避難場所・経路は玄関口に掲示し、家族にも連絡してある。 | ○ | 2階からの避難路として非常階段のスムーズな利用策や防災の検討が望まれる。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ホームに給食委員会があり、毎月開催されている。そこで出された意見は管理栄養士がたてる献立に反映されている。主食・副食・水分摂取量のチェックや服薬の管理が記録されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木造2階建てで天井が高く、木質主体の内装も快適である。居間・食堂・風呂・トイレもゆったり広めで、採光・通風とも程よい。習字・生け花・絵画・絵手紙・写真などの飾り付けも品よく行われ、ベランダには花もある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド・タンスはホームの無料貸与や自宅からの持ち込みなど、利用者の好みである。地震対策として家具の固定もされている。夜間の見守りは廊下側の通風用障子小窓から静かに行われている。 | | |

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。